

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2021-58106

(P2021-58106A)

(43) 公開日 令和3年4月15日(2021.4.15)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
AO 1 K 87/08 (2006.01)	AO 1 K 87/08 A	2 B 0 1 9
AO 1 K 87/00 (2006.01)	AO 1 K 87/00 6 2 0 Z	
	AO 1 K 87/00 6 4 0 C	

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2019-182981 (P2019-182981)	(71) 出願人	000002439
(22) 出願日	令和1年10月3日 (2019.10.3)		株式会社シマノ
			大阪府堺市堺区老松町3丁目7番地
		(74) 代理人	100117204
			弁理士 岩田 徳哉
		(72) 発明者	谷口 一真
			大阪府堺市堺区老松町3丁目7番地 株式
			会社シマノ内
		(72) 発明者	山中 貴弘
			大阪府堺市堺区老松町3丁目7番地 株式
			会社シマノ内
		Fターム(参考)	2B019 AA06 AA14 AH02

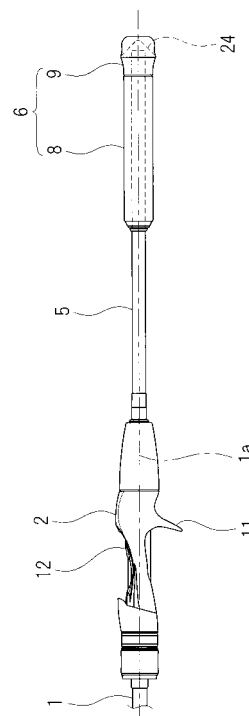
(54) 【発明の名称】 釣竿及びグリップ部材

(57) 【要約】

【課題】電動リールの電源コードが邪魔になりにくい簡単な構造の釣竿とグリップ部材を提供する。

【解決手段】電動リールが取り付けられるリールシート2を備えた釣竿1であって、竿尻側の端部に、電動リールの電源コードを保持するための凹溝24を有しており、凹溝24は、釣竿1の中心線1aに対して90度未満の傾斜角度で傾斜しており、凹溝24は、180度対向して一対形成されており、竿尻側の端面21に、一対の凹溝24同士がつながる連結溝を有している。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

電動リールが取り付けられるリールシートを備えた釣竿であって、
竿尻側の端部に、前記電動リールの電源コードを保持するための凹溝を有し、
前記凹溝は、前記釣竿の中心線に対して 90 度未満の傾斜角度で傾斜している、釣竿。

【請求項 2】

前記凹溝は、180 度対向して一対形成されている請求項 1 記載の釣竿。

【請求項 3】

竿尻側の端面に、前記一対の凹溝同士をつなぐ連結溝を有している請求項 2 記載の釣竿。

10

【請求項 4】

グリップ部材を備え、前記グリップ部材の竿尻側の端部に前記凹溝が形成されている請求項 1 乃至 3 の何れかに記載の釣竿。

【請求項 5】

釣竿の少なくとも竿尻側の端部に装着されるグリップ部材であって、
竿尻側の端部に、電動リールの電源コードを保持するための凹溝を有し、
前記凹溝は、前記グリップ部材の中心線に対して 90 度未満の傾斜角度で傾斜している、釣竿用のグリップ部材。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

20

【0001】

本発明は、電動リールが取り付けられる釣竿と、釣竿用のグリップ部材に関する。

【背景技術】

【0002】

釣竿のリールシートに装着された電動リールと外部電源との間には、電源コードが接続される。電源コードを介して外部電源から電動リールに給電される。この電源コードが釣りの邪魔になることがある。この問題に対して、下記特許文献 1 では、竿本体の内部に中間コードを配備した構成が提案されている。この釣竿では、電動リールにリール接続コードが接続され、竿本体の側孔を介してリール接続コードの端部が中間コードに接続される。そして、竿本体の竿尻部において中間コードに電源コードが接続される。しかしながら、竿本体の内部に中間コードを備える必要があり、構造が複雑になる。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2007-300841 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

本発明は、電動リールの電源コードが邪魔になりにくい簡単な構造の釣竿とグリップ部材を提供することを課題とする。

40

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明に係る釣竿は、リールシートを備えている。リールシートには、電動リールが取り付けられる。釣竿は、竿尻側の端部に、電動リールの電源コードを保持するための凹溝を有している。凹溝は、釣竿の中心線に対して 90 度未満の傾斜角度で傾斜している。

【0006】

この構成の釣竿によれば、竿尻側の端部の凹溝に電動リールの電源コードを保持することができる。凹溝が、釣竿の中心線に対して 90 度未満の傾斜角度で傾斜しているので、電源コードを凹溝に容易に入れることができる。

【0007】

50

好ましくは、凹溝は、180度対向して一対形成されている。

【0008】

好ましくは、釣竿は、竿尻側の端面に、一対の凹溝同士をつなぐ連結溝を有している。

【0009】

好ましくは、釣竿は、グリップ部材を備えている。グリップ部材の竿尻側の端部に凹溝が形成されている。

【0010】

また、本発明に係る釣竿用のグリップ部材は、釣竿の少なくとも竿尻側の端部に装着される。グリップ部材は、竿尻側の端部に、電動リールの電源コードを保持するための凹溝を有している。凹溝は、グリップ部材の中心線に対して90度未満の傾斜角度で傾斜している。

10

【発明の効果】

【0011】

以上のように、竿尻側の端部の凹溝に電動リールの電源コードを保持することができるので、電動リールの電源コードが邪魔になりにくい。また、電源コードを凹溝に容易に入れて保持することができる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】本発明の一実施形態における釣竿用のグリップ部材を示す平面図。

【図2】同グリップ部材を竿尻側から見た図。

20

【図3】(a)は図1のA-A断面図、(b)は(a)のP矢視図。

【図4】同グリップ部材を備えた釣竿を示す正面図。

【図5】同釣竿の使用状態を示す平面図。

【図6】同釣竿の使用状態を示す平面図。

【図7】(a)及び(b)は同釣竿の使用状態を示す要部断面図。

【図8】本発明の他の実施形態における釣竿を示す正面図。

【図9】同釣竿の使用状態を示す平面図。

【図10】同釣竿の使用状態を示す平面図。

【図11】本発明の他の実施形態における釣竿用のグリップ部材を示す、図3(a)に対応した断面図。

30

【図12】同グリップ部材を備えた釣竿を示す正面図。

【図13】本発明の他の実施形態における釣竿用のグリップ部材を示す断面図。

【発明を実施するための形態】

【0013】

以下、本発明の一実施形態に係る釣竿用のグリップ部材とそれを備えた釣竿について図1～図7を参酌しつつ説明する。尚、竿先側を前側と、竿尻側を後側とし、釣竿の中心線の方角を前後方向として、以下説明する。図4～図6に示すように、本実施形態の釣竿1は、各種のリールを装着するためのリールシート2を備えている。リールシート2は、釣竿1の後端部(竿尻側の端部)から所定長さ前側に離間した位置に備えられている。このリールシート2には、図5及び図6のように電動リール3を装着することができる。電動リール3は、使用時即ち釣りの際に、釣竿1の上側に位置する。電動リール3は、電源コード4によって図示しない外部電源に接続される。

40

【0014】

釣竿1は、ブランク5を備えている。ブランク5は例えば筒状、即ち中空状であるが、中実状であってもよい。ブランク5は例えばカーボン繊維等を強化繊維とするプリプレグにより形成される。尚、釣竿1は、一本の竿体のみを備えたワンピース構造であってもよいし、複数の竿体が継ぎ合わせられた構造であってもよい。複数の竿体が継ぎ合わせられる場合には、元竿がリールシート2を備える。リールシート2はブランク5に取り付け固定されている。釣竿1は、リールシート2の後側にグリップ部材6(リアグリップ)を備えている。グリップ部材6は、釣竿1の後端部まで伸びている。グリップ部材6は、釣り

50

人が釣竿 1 を持つ際に手で把持したり脇に挟んだりする部分である。グリップ部材 6 の長さは任意である。グリップ部材 6 は、リールシート 2 の直ぐ後側に離間せずに設けられていてもよいし、リールシート 2 から後側に離れて設けられていてもよい。本実施形態では、グリップ部材 6 はリールシート 2 から後側に離れて設けられている。

【0015】

グリップ部材 6 は、ブランク 5 とは別体である。グリップ部材 6 は、ブランク 5 の少なくとも後端部に直接又は他の部材を介して装着される。一例としては、グリップ部材 6 は、ブランク 5 の外周面に接着される。グリップ部材 6 は各種のグリップ素材から構成されている。グリップ素材としては例えば発泡 EVA やコルク等である。

【0016】

グリップ部材 6 の構成は種々であってよいが、本実施形態では、グリップ部材 6 は、筒状のメイングリップ 8 と、メイングリップ 8 とは別体構成のエンドグリップ 9 とを備えている。メイングリップ 8 は、両端開口の筒状である。メイングリップ 8 は、グリップ部材 6 の全長のうち大部分の長さを占めている。エンドグリップ 9 は、メイングリップ 8 の後側に位置している。エンドグリップ 9 は、エンドキャップとも称される。尚、メイングリップ 8 とエンドグリップ 9 との間には金属製や樹脂製等の化粧カラー 10（図 7 参照）が介装されている。但し、化粧カラー 10 が省略されて、メイングリップ 8 とエンドグリップ 9 とが密着していてもよい。メイングリップ 8 の素材とエンドグリップ 9 の素材は、互いに同じであってもよいし、例えばメイングリップ 8 の素材よりもエンドグリップ 9 の素材の方が硬いものであってもよい。

【0017】

本実施形態のエンドグリップ 9 を、図 1～図 3 に単体の状態で示している。エンドグリップ 9 は、前端開口で後端閉口の筒状である。エンドグリップ 9 は、前端面 9a（竿先側の端面）と、後端面 9b（竿尻側の端面）と、前端面 9a の周縁部と後端面 9b の周縁部とを前後方向に結ぶ外周面 9c とを有している。エンドグリップ 9 は、ブランク 5 が差し込まれる挿入孔 27 を有している。挿入孔 27 は、前端面 9a に開口している。挿入孔 27 は、非貫通の孔である。エンドグリップ 9 の中心線 9d は釣竿 1 の中心線 1a と一致する。エンドグリップ 9 はメイングリップ 8 よりも短い。エンドグリップ 9 は、ブランク 5 の後端部に被せられる。エンドグリップ 9 は、ブランク 5 に後側から釣竿 1 の中心線 1a の方向（前後方向）に沿って装着される。ブランク 5 にエンドグリップ 9 が装着されることにより、ブランク 5 の後端開口部が閉塞される。エンドグリップ 9 の後端部が釣竿 1 の後端部であり、エンドグリップ 9 の後端面 9b が釣竿 1 の後端面である。

【0018】

エンドグリップ 9 の後端部には、電動リール 3 の電源コード 4 を保持するための凹溝 24 が形成されている。図 3（a）は、エンドグリップ 9 の中心線 9d を含む切断面（縦切断面）を示している。凹溝 24 は、縦切断面に沿って延びている。凹溝 24 は、エンドグリップ 9 の中心線 9d に対して 90 度未満の傾斜角度で傾斜している。即ち、凹溝 24 は、前後方向に対して 90 度未満の傾斜角度で傾斜している。また、凹溝 24 は、エンドグリップ 9 の径方向に対しても 90 度未満の傾斜角度で傾斜している。図 3（a）に、エンドグリップ 9 の中心線 9d に対する凹溝 24 の傾斜角度 θ （以下、単に傾斜角度 θ という。）を示している。凹溝 24 の傾斜角度 θ は、90 度未満であって、例えば 30 度～60 度が好ましい。凹溝 24 は、エンドグリップ 9 の後端面 9b の中心付近から径方向外側且つ前側に傾斜しつつ延びている。凹溝 24 は、エンドグリップ 9 の後端面 9b の周縁部を横断している。即ち、凹溝 24 は、エンドグリップ 9 の後端面 9b と外周面 9c との境界部を横断している。エンドグリップ 9 の後端面 9b と外周面 9c との境界部は、凹溝 24 によって部分的に所定幅で切り欠かれている。このように凹溝 24 は、前後方向及び径方向に対して傾斜していて、エンドグリップ 9 の後端面 9b から外周面 9c にかけて形成されている。凹溝 24 の前端部はエンドグリップ 9 の外周面 9c に達して開口し、凹溝 24 の後端部はエンドグリップ 9 の後端面 9b に達して開口している。

【0019】

図 3 (b) は、図 3 (a) の P 矢視図であって、凹溝 24 の横断面形状を凹溝 24 の延伸方向から示した概略図である。凹溝 24 は、エンドグリップ 9 の外周面 9c から後端面 9b にかけて斜め方向に貫通している。凹溝 24 は、ホールド部 30 と、ホールド部 30 よりも凹溝 24 の浅い側に位置する導入部 31 とを有している。ホールド部 30 は、凹溝 24 の溝底部に位置し、導入部 31 は、凹溝 24 の入口部に位置する。ホールド部 30 の断面形状は、180 度を越える中心角を有する円弧状である。ホールド部 30 が電源コード 4 を保持する。ホールド部 30 の直径は、電源コード 4 の直径と略同じかそれよりも若干大きい。ホールド部 30 に電源コード 4 が係合する。導入部 31 は、エンドグリップ 9 の後端面 9b と外周面 9c との境界部近傍に位置している。導入部 31 の幅 W1 は、ホールド部 30 の最大幅 W2 よりも狭く、 $W2 > W1$ という関係を有している。ホールド部 30 の最大幅 W2 は、ホールド部 30 の直径である。導入部 31 の幅 W1 は、電源コード 4 の直径よりも狭い。導入部 31 の幅 W1 は、略一定である。

【0020】

凹溝 24 は、エンドグリップ 9 の径方向に 180 度対向して、一対形成されている。一対の凹溝 24 は互いに対称形状とされている。一対の凹溝 24 同士は、エンドグリップ 9 の後端面 9b において互いにつながっている。エンドグリップ 9 の後端面 9b には、一対の凹溝 24 の後端部同士を連結する連結溝 26 が形成されている。連結溝 26 は、エンドグリップ 9 の後端面 9b の中心付近に形成されている。連結溝 26 は、エンドグリップ 9 の径方向に沿って延びている。連結溝 26 の深さは、凹溝 24 の深さよりも浅い。図 2 のようにエンドグリップ 9 の後端面 9b をエンドグリップ 9 の中心線 9d の方向に沿って後側から見ると、一対の凹溝 24 及び連結溝 26 は、エンドグリップ 9 の後端面 9b を径方向に一直線状に横断している。

【0021】

グリップ部材 6 を備えた釣竿 1 を図 4 に示している。また、その釣竿 1 の使用状態を図 5～図 7 に示している。リールシート 2 は、下面にトリガ 11 を有し、上面にリール脚取付部 12 を有している。リール脚取付部 12 には電動リール 3 の図示しないリール脚が取り付けられる。図 6 及び図 7 は、右側ハンドル仕様の電動リール 3 を釣竿 1 に装着した場合を示している。右側ハンドル仕様の電動リール 3 は、平面側から見て右側にハンドル 7 を備えている。尚、ブランク 5 にエンドグリップ 9 を装着する際、一対の凹溝 24 が上下を向く状態とすることが好ましい。

【0022】

図 6 に示しているように、エンドグリップ 9 の凹溝 24 に電源コード 4 を嵌め込むことができる。詳細には、図 7 に示すように、凹溝 24 のホールド部 30 に電源コード 4 を係合させることができ、凹溝 24 のホールド部 30 に電源コード 4 を保持させることができる。凹溝 24 が釣竿 1 の中心線 1a に対して傾斜しているので、電源コード 4 を導入部 31 からホールド部 30 に容易に嵌め込むことができる。凹溝 24 の入口部には幅狭の導入部 31 が形成されているので、凹溝 24 のホールド部 30 からの電源コード 4 の抜けが防止される。また、エンドグリップ 9 を構成するグリップ素材の弾性によって凹溝 24 のホールド部 30 に電源コード 4 を容易に押し込むことができ、また、凹溝 24 のホールド部 30 に保持された電源コード 4 を凹溝 24 から容易に取り外すことができる。

【0023】

電源コード 4 は、例えば上側から下側に向けて凹溝 24 に嵌め込まれる。図 7 (a) のように、上側の凹溝 24 に電源コード 4 を嵌め込んだ後に下側の凹溝 24 に嵌め込むことができる。即ち、上下一対の凹溝 24 の双方に電源コード 4 を嵌め込むことができる。上側の凹溝 24 が後側に向けて徐々に釣竿 1 の中心線 1a に接近しているので、上側の凹溝 24 に電源コード 4 を上側から容易に嵌め込むことができる。そして、一対の凹溝 24 同士が連結溝 26 によってつながっているため、上側の凹溝 24 に嵌め込んだ電源コード 4 を、引き続いて下側の凹溝 24 に連続的に容易に嵌め込むことができる。下側の凹溝 24 は、前側に向けて徐々に釣竿 1 の中心線 1a から離れていくので、下側の凹溝 24 に電源コード 4 を容易に嵌め込むことができる。このように上下一対の凹溝 24 に電源コード 4

を嵌めることにより、グリップ部材 6 に電源コード 4 を確実に保持できる。尚、図 7 (b) のように、上側の凹溝 24 のみに電源コード 4 を嵌め込むこともできる。

【0024】

尚、本実施形態では、グリップ部材 6 がメイングリップ 8 を備えていたが、メイングリップ 8 が省略され、釣竿 1 がエンドグリップ 9 のみを備えた構成であってもよい。図 8 に、メイングリップ 8 を備えずにエンドグリップ 9 のみを備えた釣竿 1 を示している。また、図 9 及び図 10 には、その釣竿 1 の使用状態を示している。このように、釣竿 1 がメイングリップ 8 を備えていない構成であってもよい。

【0025】

尚、上記実施形態では、エンドグリップ 9 に凹溝 24 が 180 度対向して一対設けられていたが、図 11 のようにエンドグリップ 9 に凹溝 24 が一つのみ設けられていてもよい。エンドグリップ 9 に凹溝 24 が一つのみ設けられている場合、凹溝 24 は釣竿 1 の上側に位置していることが好ましい。

【0026】

また、上記実施形態ではエンドグリップ 9 の後端部に凹溝 24 が形成された構成について説明したが、図 13 のように、エンドグリップ 9 よりも長いグリップ部材 6 の後端部に凹溝 24 が形成されていてもよい。グリップ部材 6 は、上述のメイングリップ 8 とエンドグリップ 9 とが一体となった構成である。グリップ部材 6 は、前端開口で後端閉口の筒状である。グリップ部材 6 は、前端面 6a と後端面 6b と外周面 6c とを有している。グリップ部材 6 は、挿入孔 27 を有している。挿入孔 27 は、前端面 6a に開口している。挿入孔 27 は、非貫通の孔である。挿入孔 27 には、例えばブランク 5 が差し込まれる。図 13 に示しているグリップ部材 6 は、図 1～図 3 に示したエンドグリップ 9 における凹溝 24 と同様の凹溝 24 を後端部に有している。凹溝 24 は、グリップ部材 6 の中心線 6d に対して傾斜している。

【符号の説明】

【0027】

- 1 釣竿
- 1a 中心線
- 2 リールシート
- 3 電動リール
- 4 電源コード
- 5 ブランク
- 6 グリップ部材
- 6a 前端面
- 6b 後端面
- 6c 外周面
- 6d 中心線
- 7 ハンドル
- 8 メイングリップ (グリップ部材)
- 9 エンドグリップ (グリップ部材)
- 9a 前端面
- 9b 後端面
- 9c 外周面
- 9d エンドグリップの中心線
- 10 化粧カラー
- 11 トリガ
- 12 リール脚取付部
- 24 凹溝
- 26 連結溝
- 27 挿入孔

10

20

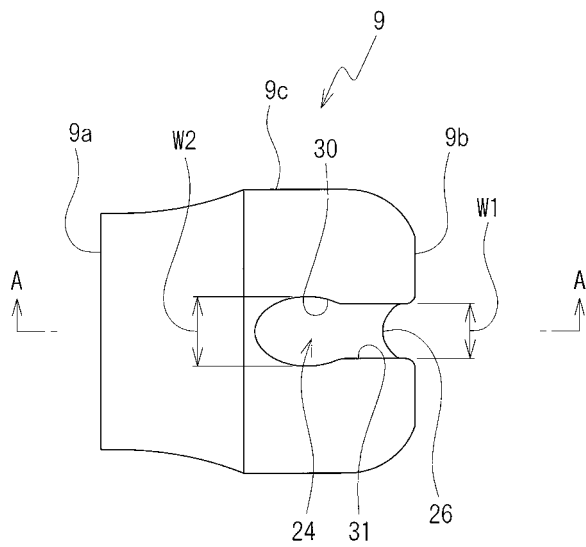
30

40

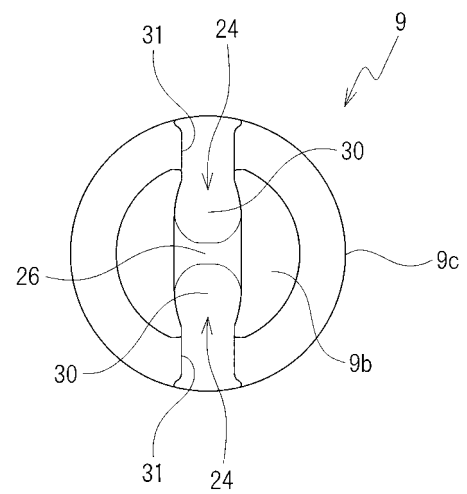
50

30 ホールド部
31 導入部
W1 導入部の幅
W2 ホールド部の最大幅

【図 1】

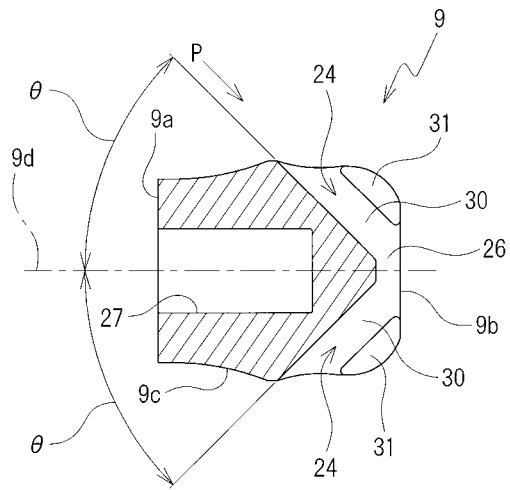


【図 2】

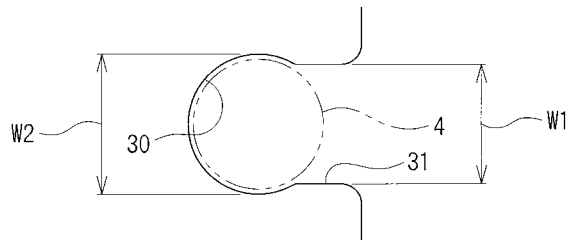


【図 3】

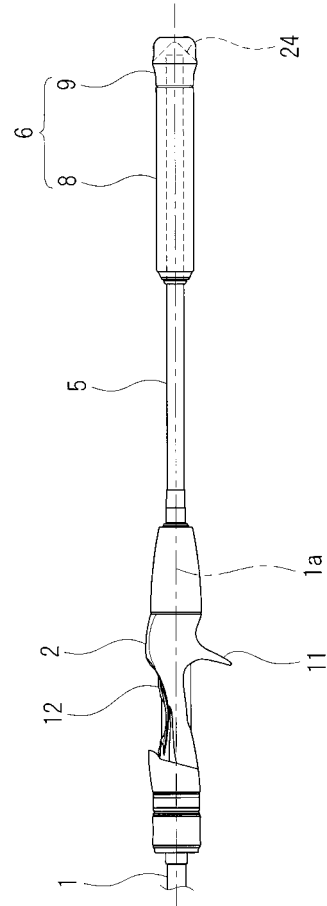
(a)



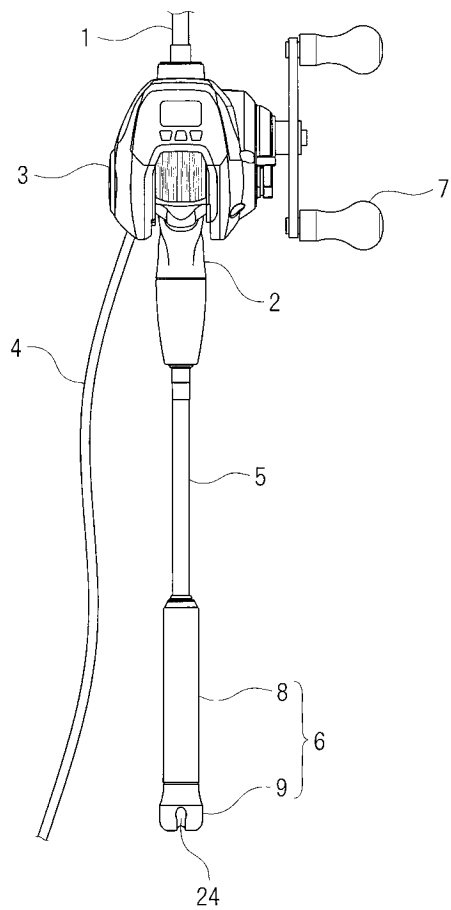
(b)



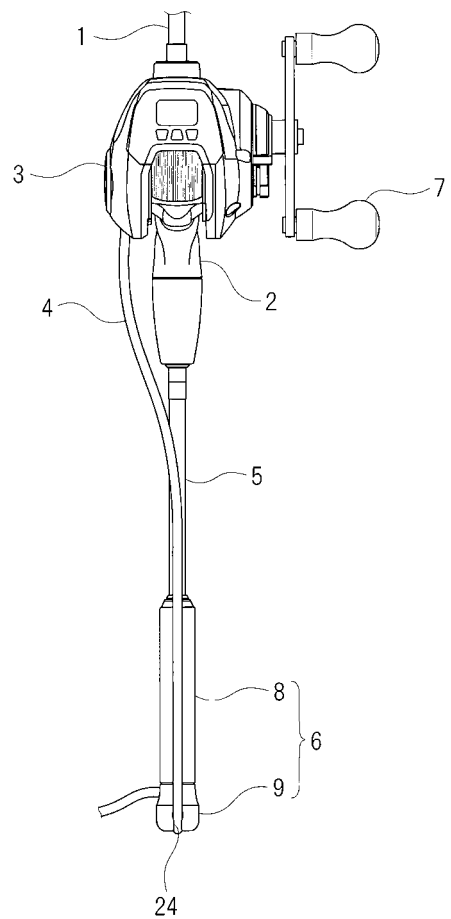
【図 4】



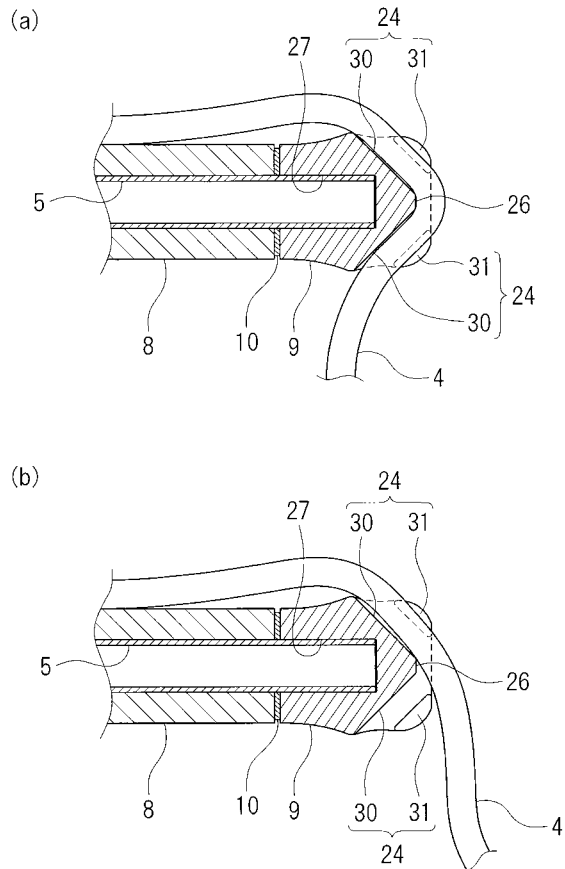
【図 5】



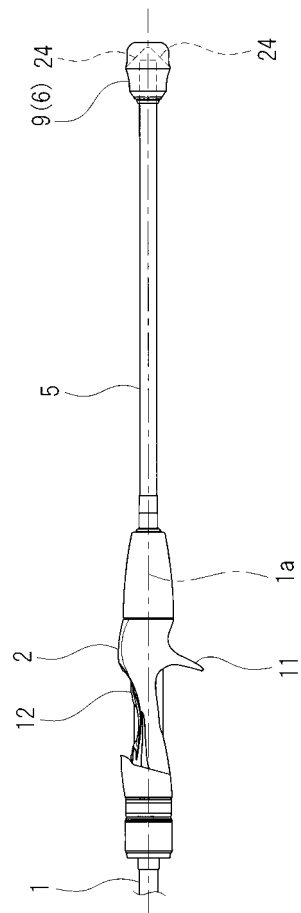
【図 6】



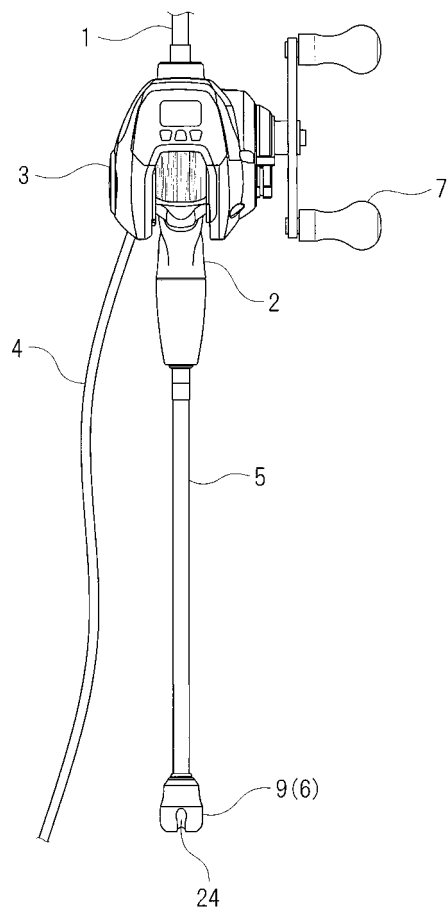
【図 7】



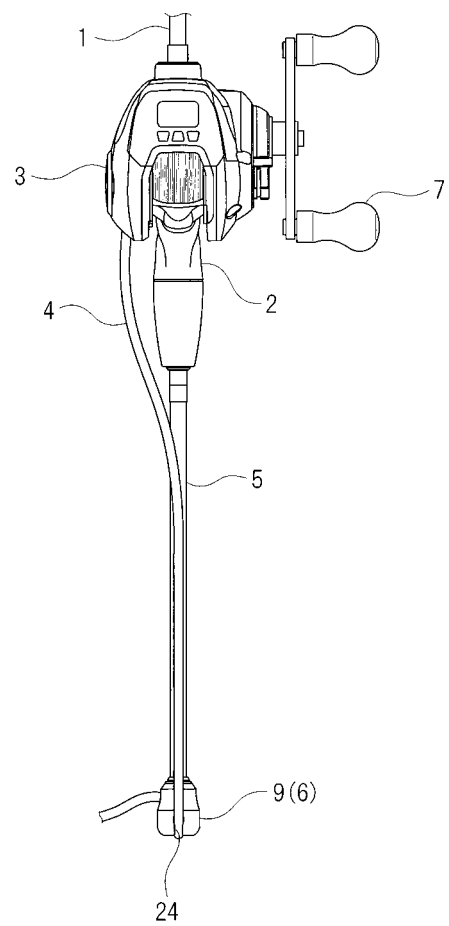
【図 8】



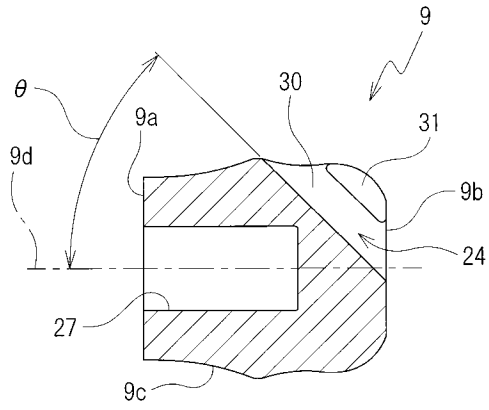
【図 9】



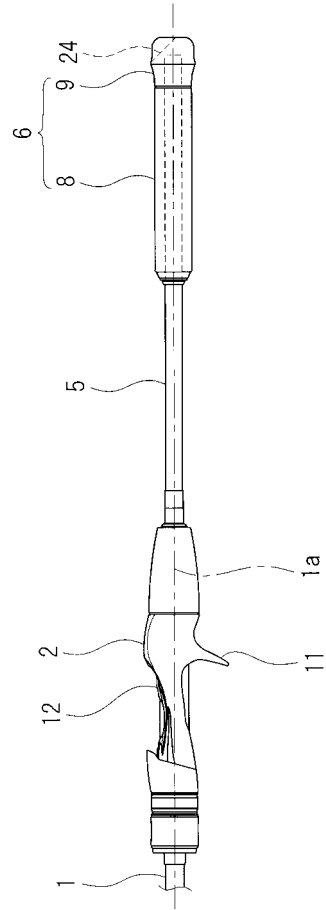
【図 10】



【図 1 1】



【図 1 2】



【図 1 3】

